

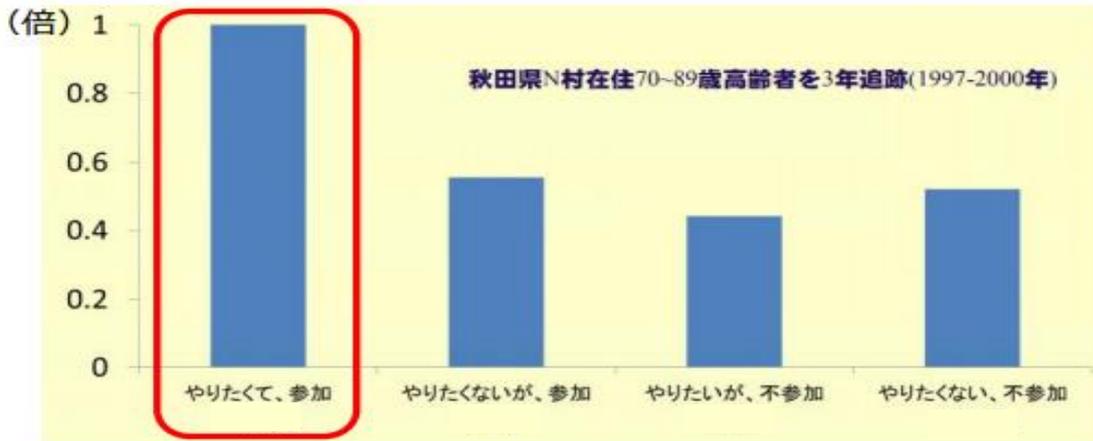
# 住民の主体的な参加につなげるためには？

## 《主体的な参加の必要性》

### ① ボランティア活動参加の有無・意向と3年後の生活機能(※)維持への効果

#### 自発的な社会参加は健康維持効果が高い

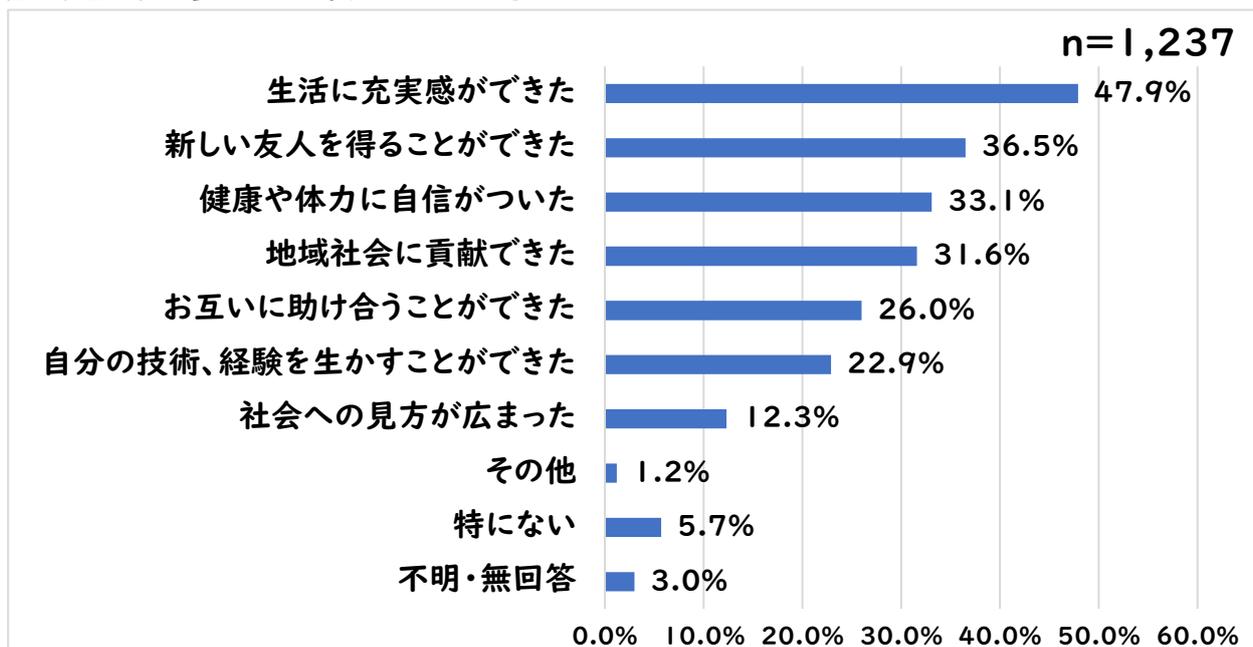
#### ボランティア活動参加の有無・意向と3年後の生活機能(※)維持への効果



注) 性、年齢、教育歴、慢性疾患(高血圧、糖尿病、脳卒中、心臓病)、過去1年の入院歴、痛み、老研式活動能力指標、健康度自己評価、BMI、血清アルブミンを調整、  
(※) 基本的日常生活動作能力 (BADL)

(出所) 第4回中央教育審議会生涯学習分科会企画部会(平成28年11月)資料3「高齢者の社会参加による“Win-Win”型健康づくり」  
東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム 藤原佳典  
(Fujiwara Y. Shinkai S. Kobayashi E et. al. 第25回日本疫学会総会, 名古屋, 2015.1.21-23)

### ② 社会活動に参加して良かったと思うこと



人的環境要因

- ・繋がりが希薄な地域性がある
- ・声掛け、誘い合う関係性がない
- ・活動内容が同じで新しい刺激がない
- ・負担が一部の人に偏っている
- ・趣味の活動の場は少ない
- ・担い手が不足している  
(立ち上げ、継続、掘り起こし)
- ・集いの場の情報発信が出来ていない
- ・男性の参加者が少ない

- ・加齢による機能低下がある  
(身体機能・認知機能)
- ・活動の存在を知らない
- ・介護予防の関心が低い
- ・農家の仕事で忙しく、活動参加が後回し
- ・地域活動に参加したくない
- ・車の免許を返納すると動きづらい

- ・集いの場がない、減少した
- ・公民館がない
- ・公民館以外の場所がない
- ・集いの場に行けない、遠い  
(坂道、中山間、階段などアクセス困難)
- ・活動費の不足
- ・コロナ禍による活動制限

個人的要因

物的環境要因